

2022年4月期 第2四半期 決算説明会資料

インスペック株式会社 2021年12月9日



東証二部上場
(証券コード：6656)

目次

- 会社概要 3
- 決算概要 6
- 財務ハイライト 15
- 第34期売上利益計画 16
- インспекの成長戦略 17

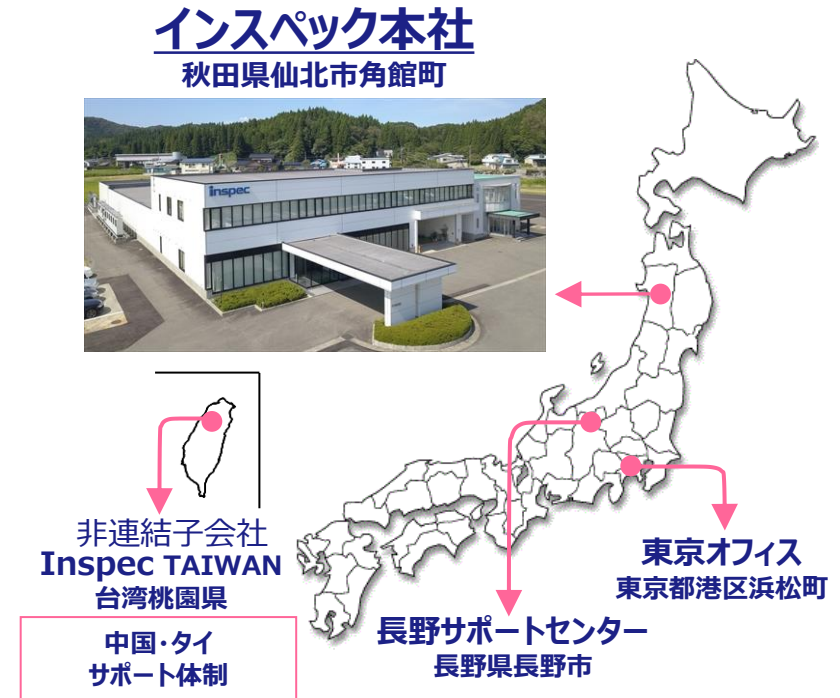


会社概要

インスペック株式会社

インスペックの概要 (2021年10月31日現在)

商号	インスペック株式会社
本社	秋田県仙北市角館町雲然荒屋敷79-1
創業	1984年（昭和59年）1月
上場市場	東京証券取引所市場第二部
代表者	代表取締役社長 菅原 雅史
主な事業	電子回路基板（半導体パッケージ基板・FPC等）の外観検査装置及び製造装置の開発・製造・販売・サービス
従業員	72名
資本金	677百万円
発行済株式数	3,790,400（単元株数：100株）
株主数	5,404名



角館の四季

インスペックの歴史

20th Century

21st Century



昭和59年
太洋製作所創業

昭和63年
(有)太洋製作所設立

1984

カセットテープ
レコーダー向け
磁気ヘッド組立

1988

SONYハンディカム
の磁気ヘッド組立

1989

FAシステムの
設計製造受託開始



1990

平成3年
新社屋建設

1991

下請け事業
撤収

1995

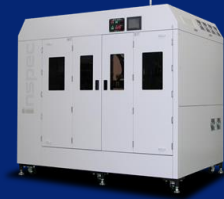
検査装置第1号
リードフレーム検査装置
MV7000発表



平成9年
通産省
「新規事業法」認定
(第83号)

1997

第2世代
リードフレーム検査装置
LF2000発表
ロングセラ―製品



2000

平成13年1月1日
インスペック株式会社
に社名変更

2001

BGA検査装置
BF8000発表
ロングセラ―製品



2002

2003

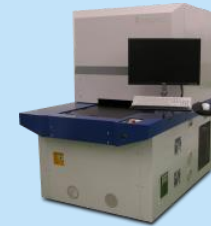
COF検査装置
TR3000発表
シェアトップとなる



平成18年
東京証券取引所
マザーズ市場へ上場
本社工場増築

2006

ハイエンドPKG基板AOI
SX5000発表
CPU向けPKGに対応



平成29年
東京証券取引所
市場第二部へ市場変更

2016

新製品！
ロールtoロールDI
RD3000発表



2017

FPC向けロールtoロールAOI
RA7000発表



2019

2022年4月期 第2四半期 総括

前期末の受注残（12億円）を堅調にこなし前期比38%の増収。

- 当社初、自動車分野向けFPCロールtoロール検査装置受注
 - 長尺FPCを一括で検査できる能力が評価。
……P10をご参照ください
- 新型コロナウイルス感染症の影響
 - エンジニアの海外渡航が制限され、納入製品の立ち上げに時間を要するなどの影響。
→オンラインサポートの拡充により、**海外案件のアフターサービス体制を強化**
 - また、同様に海外案件の受注活動も減速。
- 半導体不足の影響
 - 部材調達の遅れが発生し、製品の長納期化の懸念。
 - 半導体関連の設備投資が旺盛で、**新規引き合い・商談が活発化。**

2022年4月期 第2四半期 業績ハイライト

- ▶ 前期末受注残を堅調に消化でき順調な滑り出し
- ▶ 売上高は通期計画に対して進捗率45%

■ 損益計算書サマリー

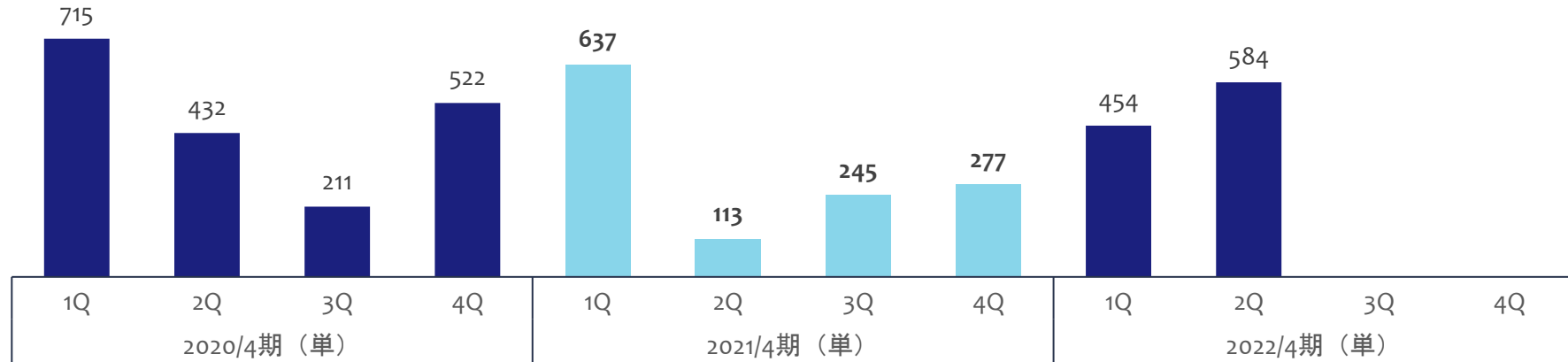
(単位：百万円)

	2022年4月期 第2四半期	2021年4月期 第2四半期	前期比	増減率	2022年4月期 通期計画	2021年4月期 第2四半期個別
売上高	1,039	956	83	8.7%	2,300	750
営業利益	26	56	△30	△53.6%	80	70
経常利益	18	42	△24	△57.1%	200	60
当期純利益	11	34	△23	△67.6%	170	51

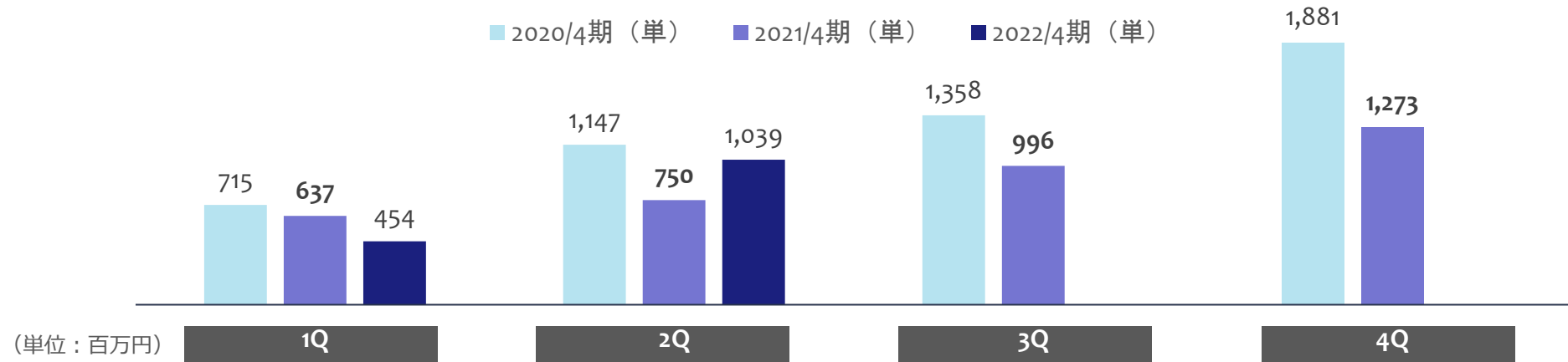
※ 連結除外に伴い、2021年4月期期末より非連結決算へ移行したため、前期比較は参考値となります。

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

四半期毎の売上高推移



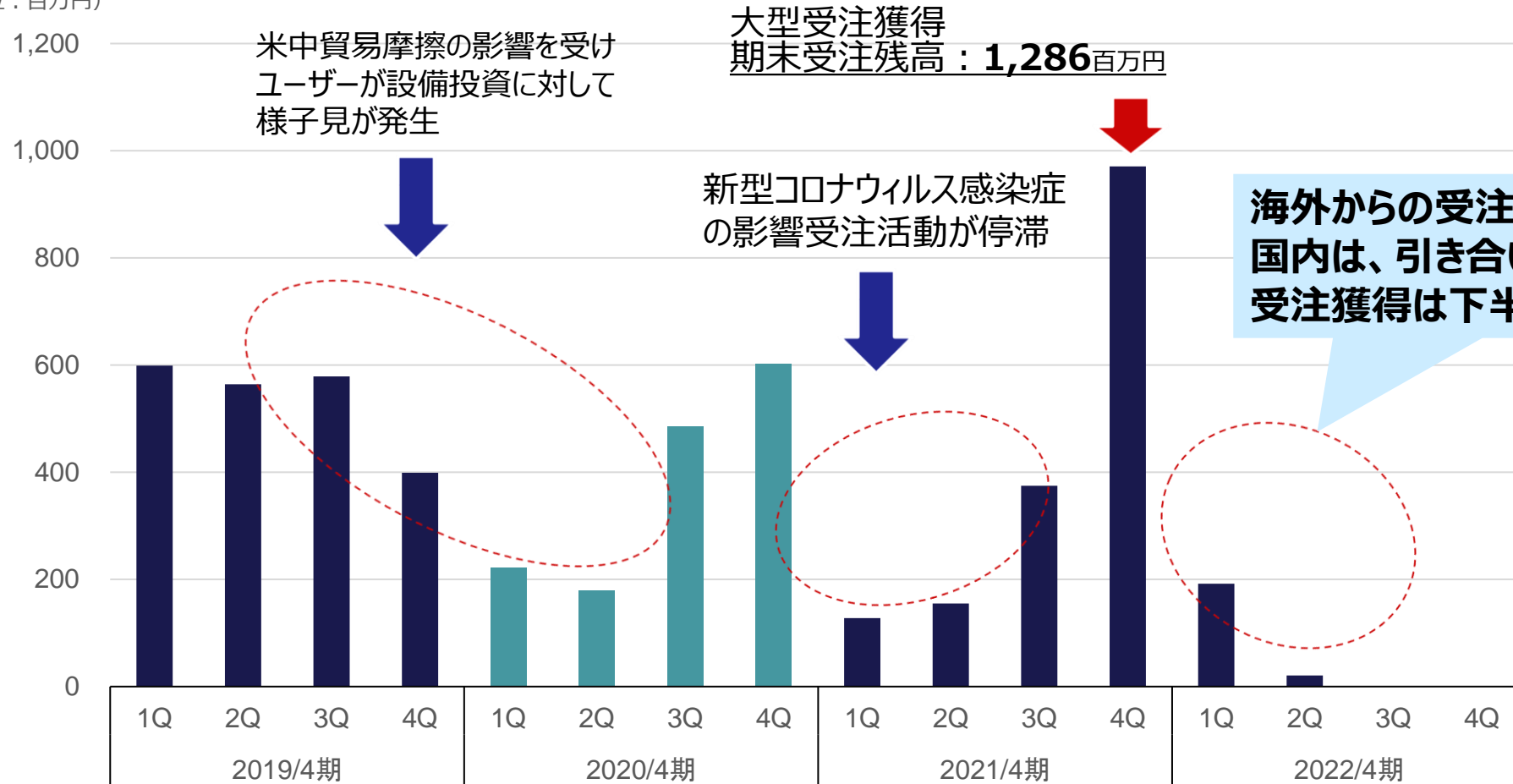
売上高比較



受注高推移

四半期毎の受注高推移

(単位：百万円)



新製品受注（7月）

当社初、車載フレキシブル基板向けロールtoロール型検査装置 RA7400 受注

【背景】

自動車の電子化、電動化により著しく増え続ける配線（ワイヤーハーネス）を軽量で生産性の高い FPC へと置き換える流れが加速しております。その中において、エレクトロニクス分野で培った当社のロール to ロール型検査装置が、その豊富な実績、圧倒的な生産性、サポート力に加え、長尺 FPC を一括で検査できる能力などがお客様から高く評価されました。



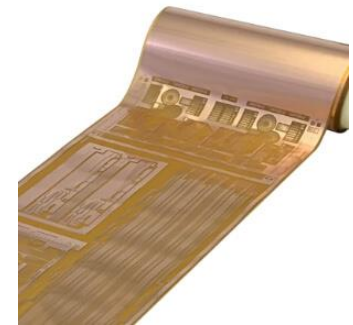
車載 FPC 検査装置『RA7400』

※ 当該案件は2022年4月期の納入（売上計上）を予定

今後、自動車分野において長尺 FPC をシームレスに露光可能な当社のロール to ロール型シームレス露光装置の市場が立ち上がってくると予測。
長尺 FPCをシームレスに処理できる検査装置と露光装置をあわせてお使いいただくことでユーザーの付加価値を高めることが可能。

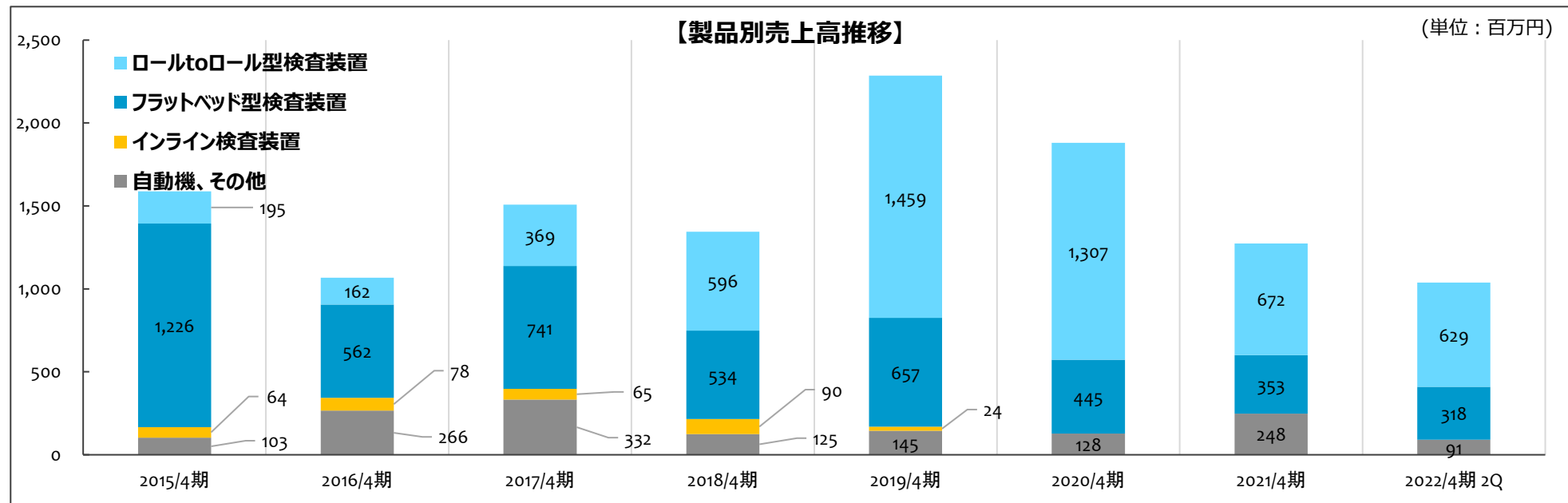
露光装置の詳細については
P25～P27をご参照ください

フレキシブル基板

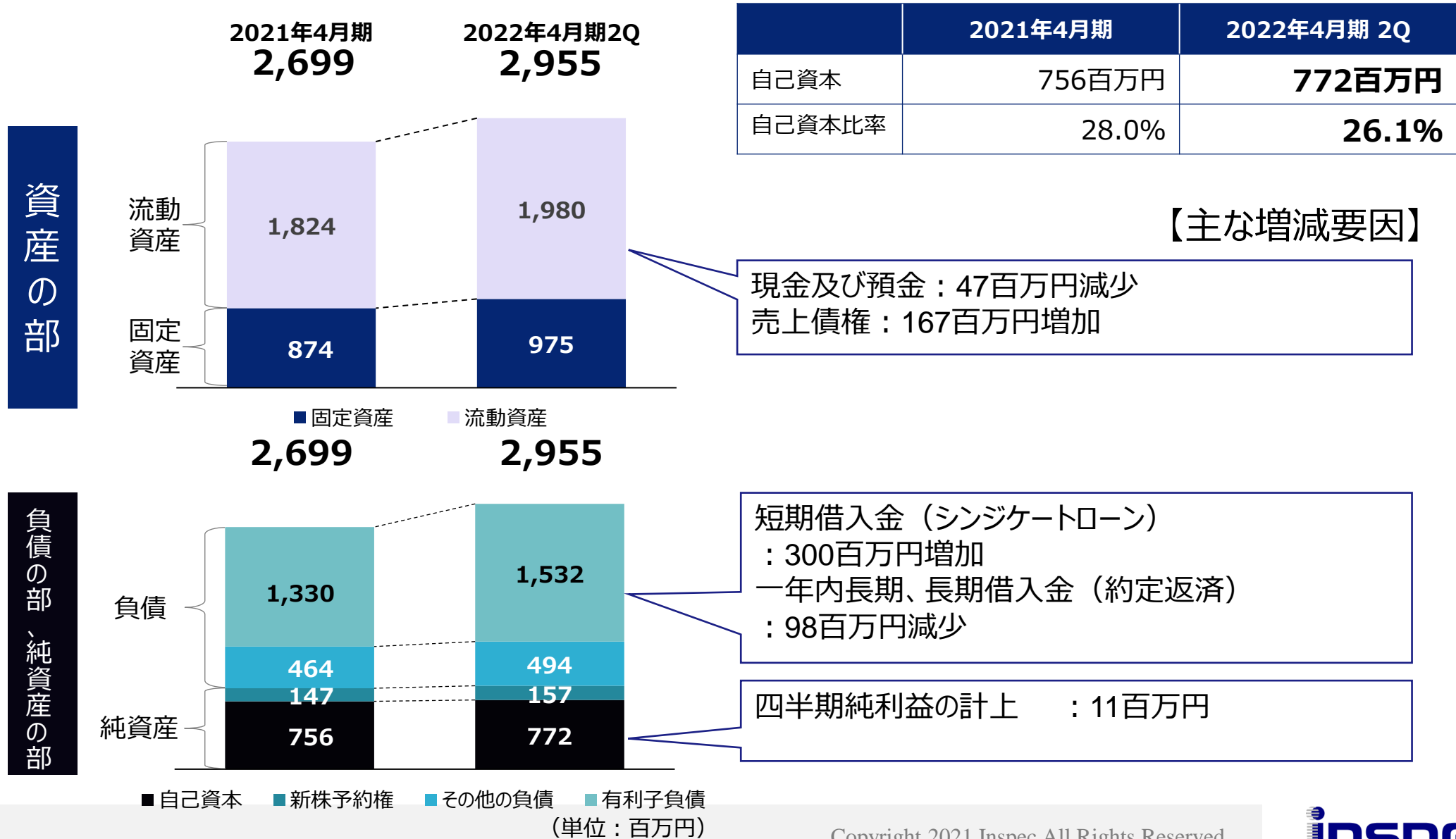


製品別売上高

	2022年4月期 2Q		2021年4月期 2Q		前年同期比 増減率
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	
■ 売上高合計	1,039	100.0%	750	100.0%	38.5%
■ ロール to ロール型検査装置	629	60.5%	446	59.6%	41.0%
■ フラットベッド型検査装置	318	30.6%	210	28.0%	51.5%
■ インライン検査装置	—	—	—	—	—
■ 自動機・その他	91	8.9%	93	12.4%	△ 2.7%



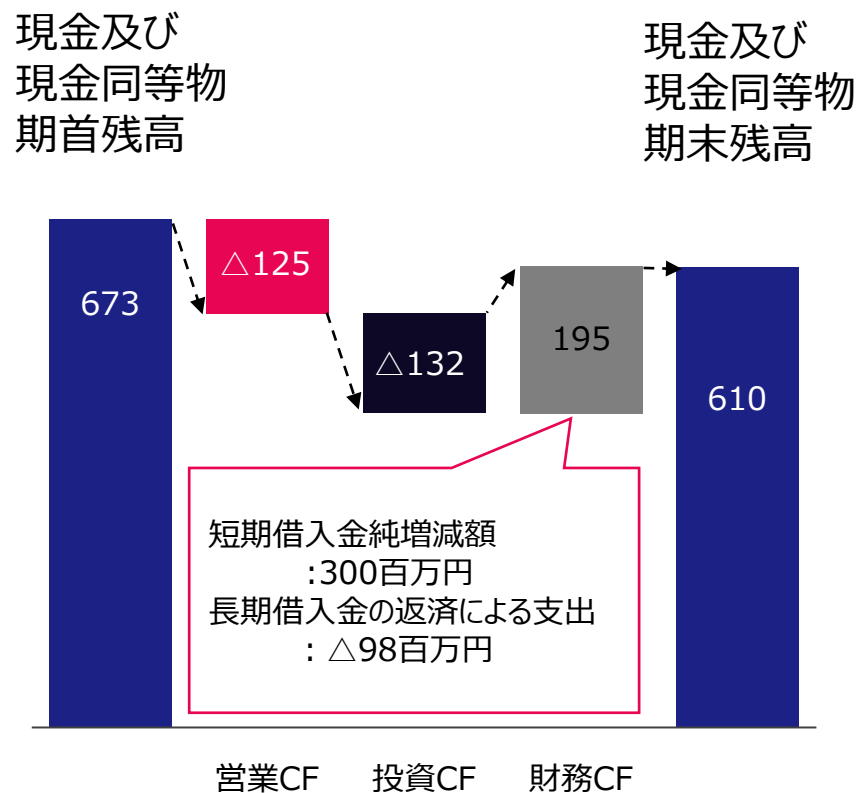
要約貸借対照表



	2021年4月期	2022年4月期 2Q
自己資本	756百万円	772百万円
自己資本比率	28.0%	26.1%

要約キャッシュ・フロー計算書

現金及び現金同等物 62百万円の減少



(単位: 百万円)

	2022年4月期 2Q
期首現金及び現金同等物残高	673
営業活動によるキャッシュ・フロー	△125
投資活動によるキャッシュ・フロー	△132
フリーキャッシュ・フロー	△257
財務活動によるキャッシュ・フロー	195
現金及び現金同等に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	△62
期末現金及び現金同等物残高	610

研究開発費

	2022年4月期 2Q		2021年4月期 2Q		対前年 増減率
	金額（百万円）	対売上比	金額（百万円）	対売上比	
半導体パッケージ基板・ 精密基板検査装置関連事業、 ロールtoロール型シームレス直描露光機事業	112	10.8%	87	11.6%	+28.2%

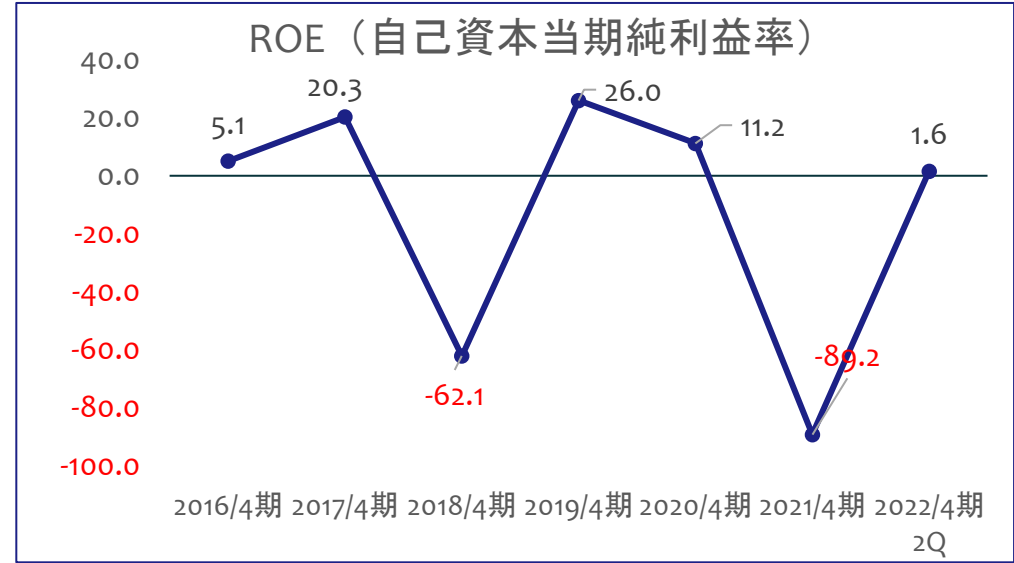
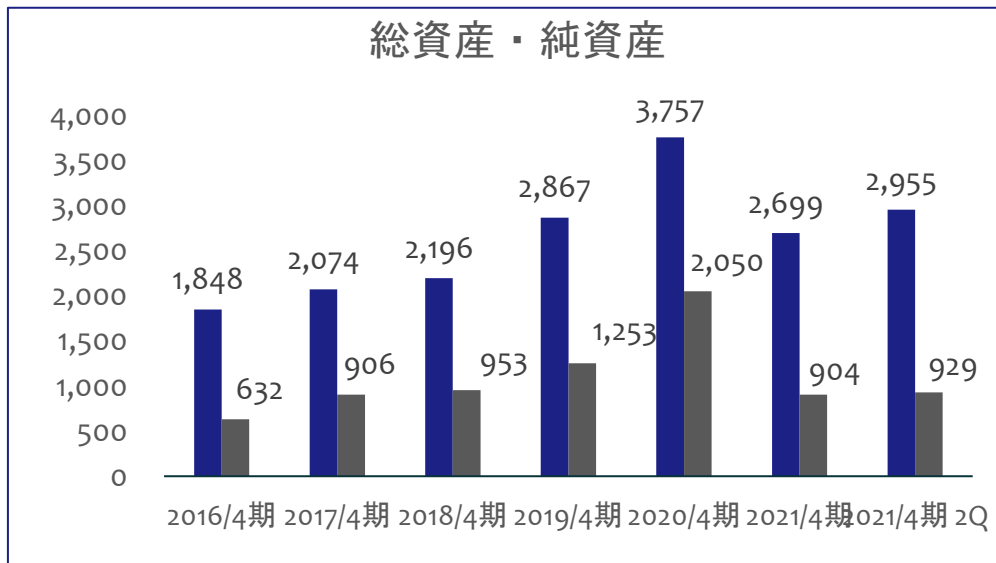
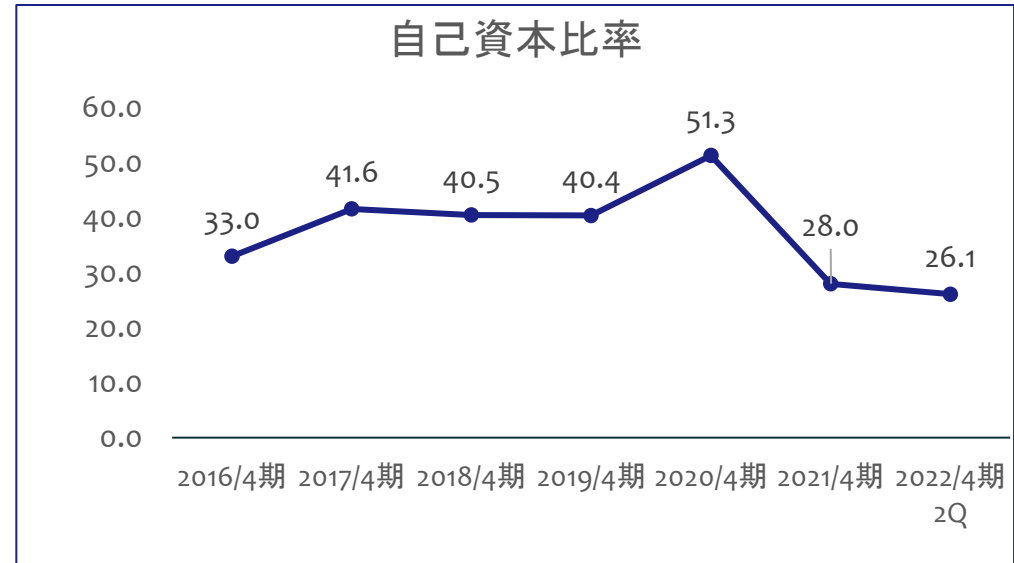
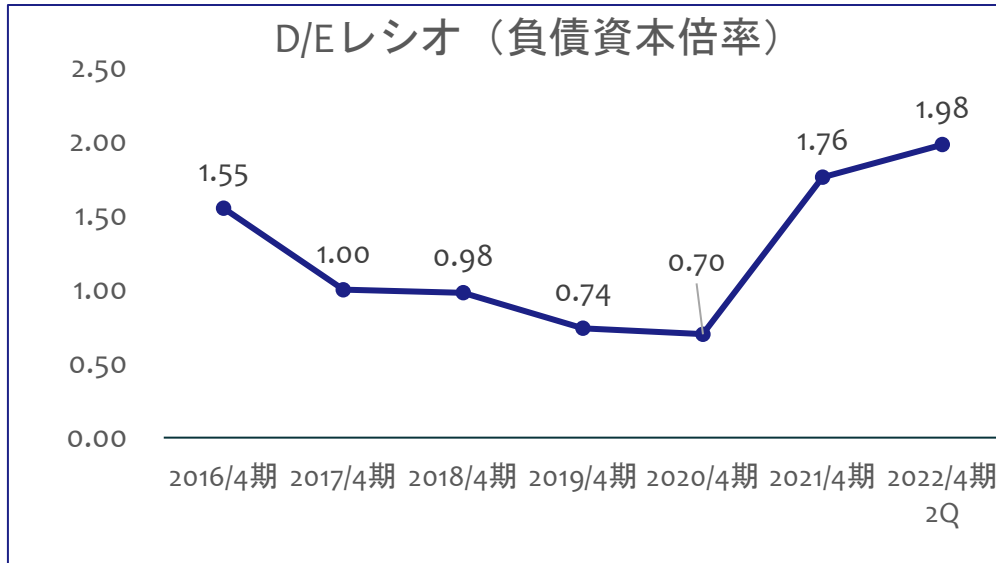
◆半導体パッケージ基板・精密基板検査装置関連事業

- ・ロール to ロール向け画像処理システム、高速インライン検査システム等の開発
- ・AIを活用した欠陥分類システムの開発

◆直描露光機事業

- ・ロール to ロール型シームレスレーザー直描露光機の開発（次世代機）

財務ハイライト（個別）



2022年4月期 通期売上利益計画

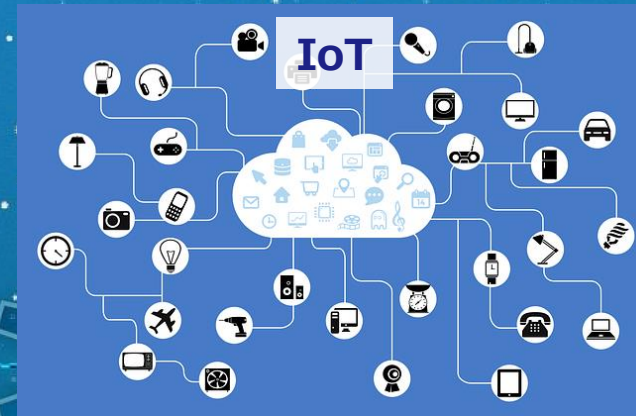
(単位：百万円)

	2022年4月期 計画	2021年4月期 実績	前期比増減	増減率
売上高	2,300	1,273	+1,027	80.6%
営業利益	80	△277	+357	—
経常利益	200	△310	+510	—
当期純利益	170	△1,195	+1,365	—

◆重点課題

- ✓ 検査装置・露光装置：海外市場において、自動車分野への積極攻勢
- ✓ 差別化：コストダウンを断行し、品質・コスト・サポートで徹底した差別化
- ✓ 人材育成：若手育成強化と世代交代の加速

インスペックの成長戦略

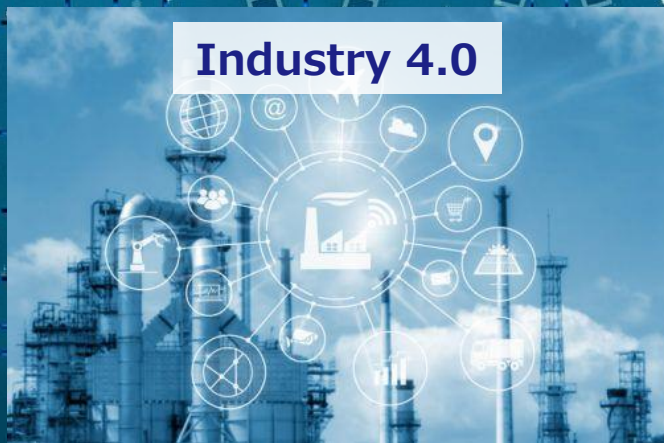


CASE

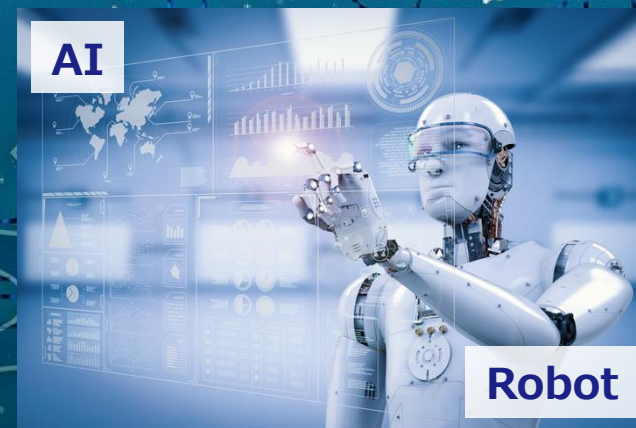
IoT

5G

ICT



あらゆるものがつながる時代



AI

インスペックの2大戦略

1. エレクトロニクスマーケット

事業分野

- 半導体分野
- モバイルデバイス分野

対応製品

- 高性能検査装置
- SX・BP・BF各シリーズ
- RA・RV各シリーズ



主要マーケット

- 日本国内
- アジア地域

キーワード

- **5G → 6G**
- **AI**
- **DX**
- **VR・AR・MR**
- **CLOUD**

2. モビリティマーケット

事業分野

- 車載エレクトロニクス
- 航空機のエレクトロニクス

対応製品

- RtoR型検査装置
- RA7400シリーズ
- RtoR型直描露光装置
- RD3000シリーズ

主要マーケット

- 欧州
- 北米
- 日本国内
- アジア地域

キーワード

- **CASE**
- **カーボンニュートラル**
- **車両軽量化**

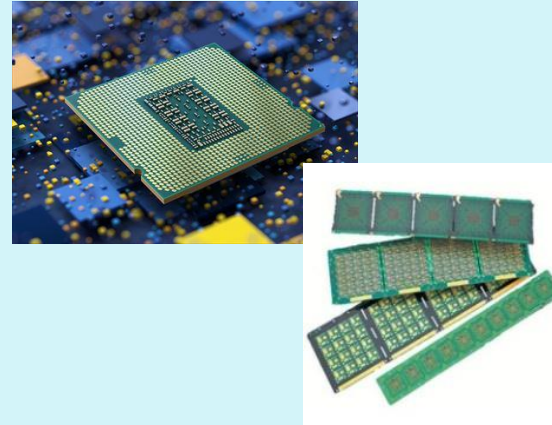


主な製品と用途

検査装置

対象製品

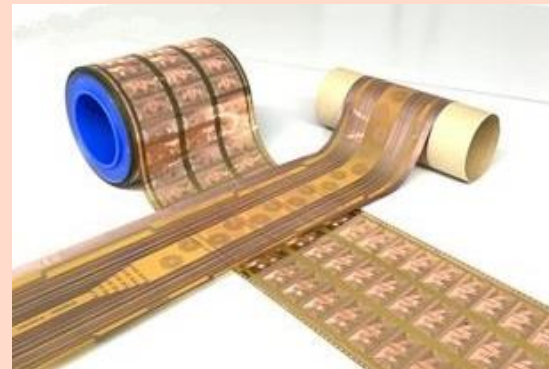
用途例



検査装置・露光装置

対象製品

用途例



Beyond コロナ 加速するデジタル市場

多種多様のFPCが使われている
iPhone 13 Proの例



バッテリー・マネジメント・システム

主要電子機器の需要動向

(単位：百万台)

	2019	2020	2021 (予)	2022 (予)
パソコン	262	298	324	314
スマートフォン	1,457	1,290	1,352	1,392
サーバー	12.0	12.2	12.6	12.9
自動車	91	77	78	80
基地局	2.7	3.1	3.2	3.4

参照元：電子デバイス産業新聞



検査装置 AOI / AVI

独自開発の最先端画像処理技術

インスペック 検査装置のご紹介

1995

2000

2005

2010

2015

2021

検査装置の歴史

Lead Frame
AOI



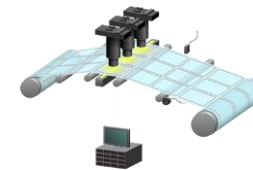
COF AOI



Fine COF AOI



Inline AOI



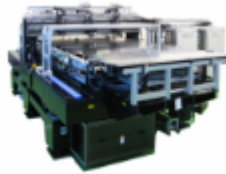
FPC/COF AOI



FPC VIA



TFT Array
AOI



PCB AOI



FPC/COF AVI



Lead Frame
AVI



PKG AVI



PCB AVI



PCB VIA



PKG AVI



inspec I

inspec III

inspec SE III

inspec II

inspec SE II

フラットベッド型AOI『SXシリーズ』のご紹介



SX5600

半導体パッケージ基板向けAOI『SX5600』

- インスペク基板AOIのフラッグシップモデル
- 最小線幅9 μ mの超高精細基板に対応
- クラス最速レベルの生産性を実現

多用途コンパクトAOI『SX1000』

- 省スペース、低コストなエントリーモデル
- 小型基板、トレーに乗った個片基板、フレームなど自在なカスタムでマルチユースな検査装置
- 精密穴（レーザービア）検査で多くの実績



SX1000

ロールtoロールAOI『RAシリーズ』のご紹介



RA7100

エレクトロニクス分野向けロールtoロールAOI『RA7100』

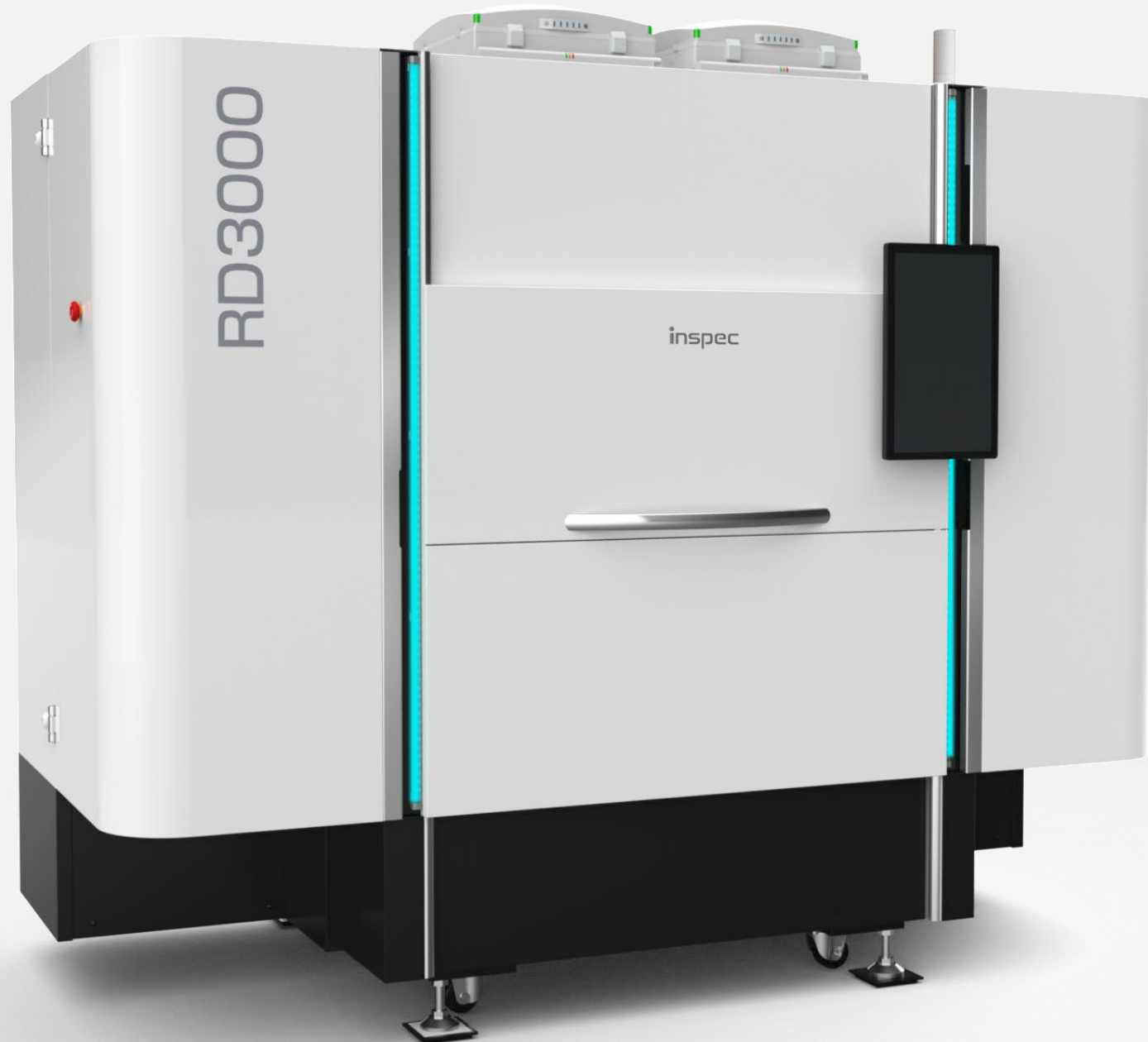
- スマートフォン、タブレット端末、ウェアラブルデバイスなど小型デジタルデバイスに使用されるFPCの**ファインピッチパターン**向け検査装置
- **業界最速クラス**の検査速度で圧倒的な生産性を実現
- 長年培ってきたロールtoロール搬送技術と高性能画像処理システムで**高精細なパターンも安定した検査**が可能

車載分野向けロールtoロールAOI『RA7400』

- 車載向けのラフピッチなFPCに特化した**超高速モデル**
- ロールtoロール型露光装置『RD3000』と**相性抜群**
- 充実したスペックを**低価格**で提供



RA7400



露光装置

ロールtoロール型シームレスレーザー露光装置

RD3000

RD3000の特徴



▶ ロールtoロール長尺シームレス露光

- ・最大露光長6m×露光幅250mmのパターンを継ぎ目なしで露光
- ・条件により100mパターン of シームレス露光が可能
- ・もちろん長尺だけでなく、小物パターンも対応可能
- ・自動品種切り替えにより長時間自動運転が可能

▶ 高速露光機構

- ・最大35mm/秒の高速露光
- ・1ロールを一度も止めることなく、端から端まで連続露光可能
→シート毎の停止、吸着、位置合せ、サイクル毎の材料入替え等が不要

▶ クラス最小の設置面積

- ・W2,400mm×D1,310mm×H2,115mmのコンパクトデザイン
- ・オールインワン設計で本体以外の付帯設備は不要

▶ 低ランニングコスト

- ・半導体レーザーの使用でメンテナンスコストを大幅に削減
- ・省エネ設計によりCO2削減に貢献

▶ 2次元コード付加機能

- ・最小露光単位のピース毎に異なる2次元コードの描画が可能

RD3000について



主なスペック

Model Name	RD3000
最大露光長さ	6m (条件付きで100mも可能)
対応幅(露光幅)	260mm (250mm)
露光速度	20mm/秒 ~ 35mm/秒
推奨ドライフィルム	RD-2015 (昭和電工マテリアルズ) ADC-151, ADH-156(旭化成)
露光精度 (L/S)	70μm/70μm
露光面	片面FPC
露光波長	405nm半導体レーザー
幅 x 奥行き x 高さ	W2,400xD1,310xH2,115 mm
重量	1,950kg

◆現在の取り組み

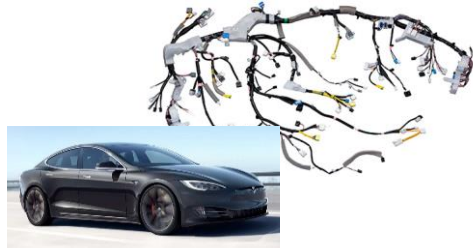
受注前の活動として**自動車分野**、**エレクトロニクス分野**、**医療分野**のユーザーに向けて評価を実施中。

グローバル販売戦略



カーボンニュートラルに向けて

➤ ワイヤハーネスのFPC化により軽量化が実現可能

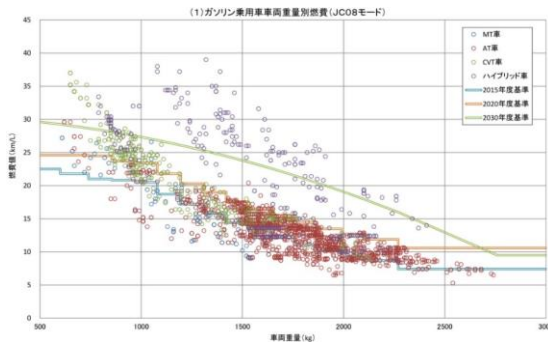


大手EVメーカーの検討

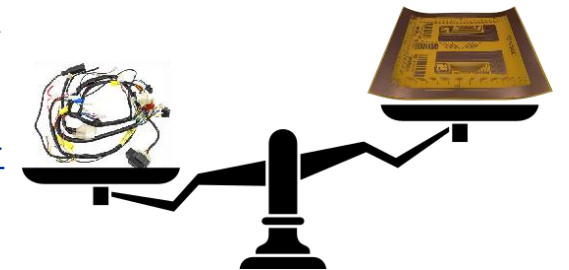
ワイヤハーネスの総使用量を**3,000m** → **1,500m** → **100m**と削減することで、大幅な軽量化・品質向上・コストダウンを実現した。ワイヤハーネスからFPCへの置き換えが大きな役割を果たしている。



➤ 車両の軽量化により省エネに貢献



左図はガソリン車の重量と燃費の関係を表したグラフである。この図から当社が試算したところによると、車体重量が**30kg軽量化**すると、自動車の**燃費が2.68%向上**する。ワイヤハーネスがFPCに置き換わることで自動車の重量が軽減でき、環境性能の向上に貢献することが可能となる。



私たちインスペックは「誰一人取り残されない社会」を目指し、 その繁栄と発展に貢献してまいります。



- ✓ NPO法人カタリバへの寄付
- ✓ ガスヒートポンプエアコンの採用
- ✓ 全社の照明をLED化へ
- ✓ 露光機の開発でCO2削減への貢献
- ✓ 地域行事への社員の参加による協賛
- ✓ ゴミ、産業廃棄物の徹底したリサイクル
- ✓ 全社員へ月刊誌『致知』を配布し、毎月社内木鶏会を実施
- ✓ 全社員のWebセミナー受講を継続
- ✓ 自分の頑張りが会社の成長につながる、チャレンジし続けるワクワク感の創出
- ✓ 歴史と伝統の町、角館の景観を維持するボランティア活動

「社員で取り組むSDGs」
インスペック株式会社が清掃活動

仙北市に本社を置く半導体検査装置メーカーのインスペック株式会社では今年度の1月よりSDGsについて学び、感想や自社の活動についてレポートを提出するなどSDGs活動の目標を達成する取り組みをしています。

10月9日、SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」として角館町の武家屋敷通り周辺の清掃活動を社員や家族32人で行いました。

地元の方や観光客が利用する箇所を重点的に草むしりや落ち葉を集めるなど心地よい汗を流しながら作業をしました。

同社の社員で家族と参加した相馬悠太さんは「美しい景観を維持すると、観光などで訪れた方々はよい思い出を持ち帰ることができる。また、自分たちで掃除をすることで一層地元愛を深められるという相乗効果も生まれる」と話しました。

また、社員である父親が清掃活動をするという自主参加を希望した小学生もいました。感想を伺うと「最初は落ち葉が散らかっていたけどきれいになっ

てよかった。きれいになったことで皆さんに好印象をもってもらいたい」と元氣よく話してくれました。

本活動で委員長を務めている富岡善榮子さんは「この活動で終わることはなく、地域の関わりを大事にさらに続けていきたい」と話しました。

誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向け今すぐできることとして、使用済み切手の収集やペットボトルのキャップ集めなど、SDGsへの取り組みが続きます。



清掃活動を通して地域との関わりが深まりました。

仙北市広報11月号

ご清聴ありがとうございました。

インスペックは、世界におけるオンリーワン企業を目指し、
チャレンジを続けてまいります。

本資料のお取り扱い上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。